

100年ぶりの「平成の大修理」完了 国宝瑞巖寺落慶特集



▲パイロットの周りには多くのファンが集まりました



▲沿道からの声援に笑顔で答える千葉雄大さん



▲ブルーインパルス Jr.の展示走行も大盛況でした

6月24日は、瑞巖寺本堂において落慶法要が執り行われました。平成の大修理に関わった方々をはじめ、伊達家第18代当主伊達泰宗さんや全国から集まった僧侶などおよそ400人が参列しました。法要では、厳かな雰囲気の中、読経しながら巡る行道や献香、献茶、工事の関係者への感謝状の贈呈などが行われました。落慶法要の歴史的な瞬間に立ち会おうと、瑞巖寺本堂前の中庭には全国各地から多くの参拝客が訪れました。

歴史の重みを 感じさせる法要



▲大輪の花火が松島湾を彩りました



▲観光客が見守る中神輿の担ぎ手が瑞巖寺の参道を練り歩きました

法要後の午後1時から仙台のすずめ踊りや瑞巖寺ゆかりの日吉山王神社など町内4神社の神輿ら星によるパレードが行われ、参加した氏子などおよそ3500人は、掛声を上げながら神輿を担ぎ、修理の完成を祝福しました。



▲全国から多くの僧侶が参列しました



▲読経しながら巡る行道



▲瑞巖寺本堂前の中庭に多くの参拝客が訪れました




▲渡御した神輿は中央広場に展示されました



▲海外の方々も神輿を担ぐ貴重な経験をしました

次の100年に向けて、文化財を後世に【瑞巖寺大修理】

平成20年11月から30年3月まで実施された平成の大修理。素屋根という大きな足場で覆われていたことは記憶に新しいのではないのでしょうか。修理は本堂のみならず、門や廊下に及び、屋根や床組み、建具も全て外される大規模なものでした。また、基礎をコンクリートで固め、漆喰壁をポリカーボネートで補強するなど耐震にも気を配っています。



▲室中孔雀の間

6月22日に開催された瑞巖寺落慶祝前夜祭には、約39,000人が来場しました。

午前中はブルーインパルスのパイロットとの交流会が中央広場で行われ、記念撮影やサインを求め、多くのファンが列をつくりました。

正午には、ブルーインパルスJr.の展示走行が松島観光物産館駐車場で披露され、多くの観客が演舞スペースに集まりました。

6月24日、国宝瑞巖寺がおよそ10年の歳月を経て「平成の大修理」を終えたことに伴い、落慶法要が執り行われました。また、6月22日には、松島海岸の陸・海・空を会場に落慶を祝う前夜祭として、様々な記念事業が開催されました。

今回、落慶祝前夜祭と落慶法要当日の様子をご紹介します。

参拝客や観光客、参加者が楽しんだ前夜祭

午後1時からは国道45号を通行止めにし、伊達家第18代当主伊達泰宗さんや町にゆかりのある俳優の千葉雄大さんなど約90人が武者装束で瑞巖寺周辺や国道45号を練り歩く武者行列が行われました。中央広場では、花山鉄砲隊による演技や千葉雄大さんへのインタビューなどが行われ、武者行列への声援が途切れることがありませんでした。

午後3時からは、松島海岸上空においてブルーインパルスの展示飛行が行われ、ブルーインパルスパイロットによるアナウンスを聞きながら、観客は晴天のもと展開される迫力のある展示飛行に見入っていました。



▲馬に乗り参列した伊達泰宗さん

前夜祭のフィナーレを飾る花火大会では、落慶記念スターマインや尺玉の大輪の花火など約4000発が打ち上げられ、中央広場を埋め尽くした観客は、夜空に絶え間なく打ち上げられる花火を堪能していました。



▲ブルーインパルスの展示飛行は空の芸術でした